



## ライオンズクラブ国際協会330-A地区

キャビネット事務局 〒169-0074 東京都新宿区北新宿1-36-6 ダイナシティ西新宿1F  
TEL. 03-5330-3330 FAX. 03-5330-3370 E-mail: cab@lions330-a.org URL: http://330a.jp

2019年5月20日

ライオンズクラブ国際協会330-A地区

キャビネット役員 各位

クラブ会長・幹事・メンバー 各位

330-A地区  
ガバナー 今井 文彦  
GST献血・献眼・献腎・骨髄移植委員会  
委員長 L上野 繁幸

**緊急**

### 献血（A型・O型）協力のお願について

拝啓 向暑の候、貴ライオンにおかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。また、日頃は献血活動につきまして多大のご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、この度、東京都赤十字血液センターより、病院への供給量が非常に多く特にA型・O型について通常の備蓄量を確保することが難しい状況が続いており、このまま推移をすると備蓄量を割り、安定供給に影響が出る恐れがあるとの連絡がありました。

特にA型・O型につきましては、医療機関での緊急時における使用（異型輸血）も可能であることから、他の血液型に比べて備蓄数を維持することが難しい血液型であります。

つきましては、ご多用のところ誠に恐縮でございますが、貴クラブ会員の皆様、そのご家族及び従業員の皆様等、周辺の方々の献血のご協力をお願い申し上げます。

なお、ご協力に際しては、当面期間を2019年5月末日までとし、別紙、東京都内献血ルームでの献血協力といたします。

献血に際しては、貴ライオンズクラブからの依頼献血である旨、受付にお申し出いただければ、ご協力状況をご報告させていただきます。

皆様方のご理解とご協力を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

敬具

330-A LIONS CLUBS INTERNATIONAL

CABINET OFFICE DYNA CITY NISHISHINJUKU 1F, 1-36-6, KITASHINJUKU, SHINJUKU-KU, TOKYO 169-0074 JAPAN  
TEL. 03-5330-3330 FAX. 03-5330-3370 E-mail: cab@lions330-A.org URL: http://330a.jp

## 330-A 地区ライオンズクラブの皆様へ（お願い）

東京都赤十字血液センター

いつも大変にお世話になっております。日頃より献血へのご協力・ご支援を賜りまして、心より御礼申し上げます。

現在、病院への供給量が非常に多くなっておりまして、特に「**A型・O型**」の輸血用血液在庫が非常に厳しい状況となっております、お1人でも多くのご協力を必要としております。

緊急の

# A型・O型 献血 ご協力のお願い



献血状況		
05/17~05/23の状況(05/16更新)		
400mL	200mL	成分献血
A型	非常に困ってます	♥
O型	非常に困ってます	♥
B型	非常に困ってます	♥
AB型	非常に困ってます	♥

そこで、大変恐縮でございますが、ライオンズクラブの皆様ご自身のほか、友人・知人・ご家族等お繋がりのある方もお誘いあわせのうえ、下記献血ルームへ献血のご協力を賜りたく、何卒宜しくお願い致します。

(特に A型・O型の方の献血をお願い致します) (期間：～5月19日(日)までにお越しいただけますと幸いです) ※19日までお越しいただくことが厳しいようでしたら、5月31日(金)までお願い致します)



左記 13か所でご協力をお願い致します。

※大変恐縮でございますが、受付時間等は、各ルームのHPをご覧ください。

<https://www.bs.jrc.or.jp/ktks/tokyo/index.html>

上記13か所の対象ルームでご協力いただく際は、受付にてライオンズクラブ様であることをお伝えください。「所属のライオンズクラブ名」・「ご芳名」・「人数(お連れ様等)」をお伺いいたしまして、後日ご報告致します。

\*本状を持参または画面で提示頂くと話がスムーズに進むかと思ます。

以上、何卒宜しくお願い致します。

<ご不明な点等のお問い合わせ先>  
東京都赤十字血液センター  
献血推進課 推進係 03-5272-3523

# ありがとうの声

100人のやさしさが  
私の体をめぐっています

女優

ともよせ  
友寄

れん  
蓮さん



お芝居を始めたのは中学の部活。高校生になっても演技をすることが好きでレッスンに通っていました。そんな高校2年生の秋に「急性リンパ性白血病」と診断されました。

治療中は身体的のみならず、気持ち的にもつらかったです。薬の副作用で、髪の毛もまだらになって抜けていくし、顔もむくみ、外見が変わってしまって。そんな中、支えになったのが担当医や看護師さん。治療のみならず、節分のときは看護師さんが鬼の格好をしてくれたり、クリスマスは研修医の先生がサンタクロースの格好をして病室をまわってくれたり。何より、母はずっと一緒に付き添ってくれました。

そして多くの輸血にも支えてもらいました。輸血前は具合が悪くて意識が遠のくほどふらふらしてしまっている中、輸血を始めるとだんだん体全体が温まってきて、頬がほてるのを感じるんです。「ああ生きているんだな」って実感がありました。

私の体にめぐっているものって、100人以上の方の好意、優しさです。みなさんが献血してくれるおかげで私たち患者はこうして元気に今生きています。